

■心臓血管外科

1. 2020 年度の目標及び方針

- ① High risk 患者の手術比率が年々高くなっているが、今まで同様の良好な手術成績の維持を目指す。
- ② 改善したとはいえ、深部感染ゼロは未達であり、深部感染の根絶を目指したい。
- ③ 心臓血管外科専門医の育成
- ④ 継続的な主要学会での発表と論文化を進める。

2. 2019 年度評価

- ①余病が多くリスクの高い患者が増加しており、手術成績の維持、特に術後合併症の減少を目指す。
死亡症例のみならず合併症例のカンファも積極的に行い、改善策を探る。
→基本的には良好な成績であった。
- ②感染対策が軌道に乗りつつあるが、深部感染の根絶を目指す。
今まで通り、ICT との連携を維持・発展させる。
→ゼロではないが、良好な成績を維持している。
- ③心臓血管外科専門医の育成
→1 名取得
- ④専門雑誌への論文投稿
現体制下になり 5 年が過ぎ、その結果を含め、専門雑誌への投稿・掲載を目指す。
→一編のみであった。

3. 特徴

米国で 10 数年にわたり心臓外科を修練・実践していた外山雅章医師が 1983 年に心臓血管外科を開設以来、米国の医療の良い部分を十分取り入れ、専門性を重視し安全で確実な診断と治療を行っている。2013 年からは亀田総合病院で心臓外科の研修(1991 年～1995 年)を受けた田邊大明医師が統括部長として赴任し、さらなる手術レベルの向上に励んでいる。医師及び看護師・臨床工学士も病院のすぐ近くに在住し、24 時間・365 日いつでもベストの治療が出来ることを基本としている。

4. スタッフ構成・紹介

[→ 亀田メディカルセンターホームページ スタッフ紹介へ](#)

5. 診療内容

いずれの領域においても、術式の選択は患者さんとご家族への十分な情報提供と話し合いのもと決定している。

- 虚血性心疾患：単独冠動脈バイパス術はほとんど全例心拍動下オフポンプバイパス術で行われており、低侵襲化がなされている。また長期的予後（グラフトの長期開存）の改善を目指す視点から、グラフトの開存性を高めるためほぼ全例に動脈グラフト（両側内胸動脈、胃大網動脈など）

を使用している。

- 弁膜疾患：僧帽弁はもちろん、大動脈弁も弁形成術（自己弁の修復・温存をはかる手術）を第一選択としている。もし弁形成が困難な場合は弁置換術を行うことになるが、患者さんへの十分な情報提供のもと、人工弁の選択を行っている。基本は Quality of Life (QOL) を優先する手術の推進である。TAVI (経皮的動脈弁置換術) の実地施設認定も近いと考えられ、ますます低侵襲手術が広がっている。
- 不整脈手術：心房細動に対しては積極的にメイズ手術を行っており、弁形成術あるいは生体弁による弁置換術との組み合わせにより QOL の向上（ワーファリンフリー）に寄与している。
- 大動脈疾患：近年の TEAVR/EVAR の open 手術に比べて良好な短期・長期成績の報告を踏まえ、積極的にステントグラフト内挿術を施行している。open 手術の場合も、脳合併症や脊髄合併症の発生率を極力低下させる方法を採用している。
- その他：末梢血管手術で、下肢の血行再建や頸動脈内膜剥離術も行っている。下肢静脈瘤に対しては、日帰りレーザー治療を導入し、多くの患者様から好評をいただいている。

6. 手術実績

病院の在る地域の特殊性（高齢者、未治療糖尿病、高血圧の患者など）から全身状態の悪い患者さまが多いことが特徴。冠動脈バイパス術は緊急手術を含め死亡ゼロの年がほとんどである。弁膜疾患の手術では、僧帽弁形成術とメイズの手術の合併により QOL の高い結果を出しており、手術死亡はゼロである。大血管では緊急手術となる A 型解離の手術以外では脳合併症や手術死亡はほとんどなく良好な結果である。

7. 学術関係

田邊 大明

- 座長：『心臓：炎症 1』
第 182 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会
2020 年 3 月 7 日

加藤 雄治

- 発表：『外傷性大動脈損傷に対する治療経験』
第 5 回千葉県大動脈ステントグラフト研究会
2019 年 7 月 6 日

保坂 公雄

- 発表：『感染性心内膜炎に対し、大動脈基部置換術、僧帽弁置換術、左房再建を行った 1 例』
第 180 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会
2019 年 6 月 8 日
- 発表：『重症大動脈弁狭窄症、狭心症に対し、TAVR、off pump CABG を一期的に行った 1 例』
第 181 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会
2019 年 11 月 9 日
- 発表：『弁輪部膿瘍を伴う PVE に対し牛心膜を用いて左室流出路を再建し、Bentall 手術を行った

1 例』

第 182 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会

2020 年 3 月 7 日

文責：田邊 大明